

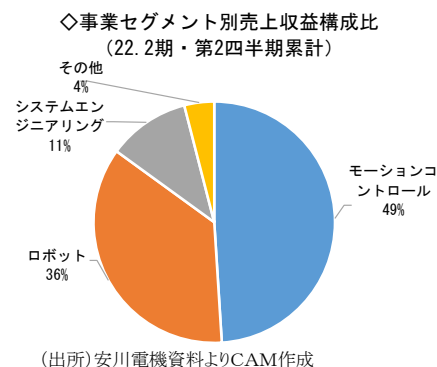
企業ニュース 安川電機

(東証1部：6506) <https://www.yaskawa.co.jp/>

作成者：奥村義弘

サーボ、インバータ、ロボットを軸に事業展開

1915年設立。「モーション制御」「ロボット技術」「パワー変換」をコア技術とし、サーボ、インバータ、ロボットなどを使ったソリューションを展開する。2017年に、新しいソリューションコンセプト「i³-Mechatronics (アイキューブメカトロニクス)」を始動させた。「i³ (アイキューブ)」は、integrated(統合的)、intelligent(知能的)、innovative(革新的)の3つの「i」を意味する。データ活用による生産性の向上、高い品質の確保・維持、AIを活用した機械・設備の故障予知等による止まらないラインの実現といった、デジタルデータソリューションを提供する。仕向け先別売上収益構成比(22.2期・第2四半期累計)は国内30%、米州15%、欧州15%、中国29%、中国除くアジア11%。



幅広い取引先から想定以上に高水準の受注

22.2期・第2四半期累計(3-8月)の連結業績は売上収益が2,399億円、前年同期比28%増、営業利益が269億円、同102%増。モーションコントロールは、営業利益が197億円、同58%増。ACサーボが中国における5GやEV関連の需要拡大に加え、半導体・電子部品需要が旺盛。インバータが欧米での市況回復や中国でのインフラや環境関連の投資で伸長した。ロボットは、営業利益が70億円、同180%増。自動車市場の設備投資が回復、一般産業分野では生産の高度化・自動化を目的とした投資が活発化、半導体ロボットの販売も堅調。システムエンジニアリングは、営業利益が12億円、同523%増。欧州の大型風力発電用電機品の売上などが回復基調にある。

22.2期の会社計画は売上収益が4,850億円、前期比24%増、営業利益が580億円、同113%増。前回見直しを営業利益で40億円上方修正した。第2四半期(6-8月)の受注高は、前年同期比59%増、9月以降も好調な動きを維持している。一部に在庫の積み増しなど先行的な受注はあるようだ。中国経済の年後半の減速などリスク要因もあるが、EV化が進む自動車関連、太陽光・風力関連ほか環境関連のインフラ投資など、幅広い需要先から高水準の受注が期待できよう。

【株価動向・投資判断】

短期的には、中国リスクなどを嫌気する動きだが、中長期での高い成長期待はキープされている。

<6506 安川電 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.2	410,957 (▲13)	24,198 (▲54)	24,642 (▲55)	15,572 (▲63)	59.4	52.00
21.2	389,712 (▲5)	27,180 (▲12)	27,172 (▲10)	18,927 (▲22)	72.4	24.00
22.2 予	485,000 (▲24)	58,000 (▲113)	59,500 (▲119)	42,500 (▲125)	162.6	52.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2021/10/15)	5,140 円
年初来高値(高値日)	6,140 円(21/9/16)
同 安値(安値日)	4,675 円(21/5/13)
予想 P E R (22.2 予)	31.6 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,033.6 円
P B R	4.97 倍
予想配当利回り	1.01 %
(1株当たり配当金52.00円)	
R O E (21.2)	8.0 %
発行済み株式数	26,669 万株